

令和元年度  
修了生による教育評価報告書

令和2年12月  
香川大学大学院地域マネジメント研究科

## 目次

総括	3
<b>第1章 修了生による大学院教育評価アンケート調査の概要</b>	
1. 調査の目的	5
2. 調査実施期間	5
3. 調査対象	5
4. 調査の内容	5
5. 集計方法	5
<b>第2章 調査結果について</b>	
1. 回答者の属性	6
2. 分析	
1. 在学当時の状況について	
(1) 在学中の出席状況について (問 1)	8
(2) 在学中勉強時間 (問 2)	8
(3) 仕事で役立ったと思う科目 (問 3)	9
(4) 仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目 (問 4)	9
(5) 土曜日の開講について (問 5)	10
(6) プロジェクト研究について (問 7,8)	10
(7) 社会人組織、社会人組織以外からの支援について (問 9,10)	11
(8) 学部学生の就職について (問 11)	12
(9) 自習室、教室の環境について (問 12,13)	13
2. 修了後の効果について	
(1) 大学院教育で身についた能力と現在の仕事に必要な能力 (問 14)	14
(2) 学んだことに満足しているかについて (問 15)	19
(3) 愛着について (問 16)	19
(4) 人的ネットワークの構築について (問 17)	20
3. 現在の状況について	
(1) 自己研修について (問 19)	21
(2) 地域活動について (問 20)	22
(3) 研究科開催の講演会・シンポジウムなどについて (問 21,22)	23
(4) 後期 (10 月) 入学の必要性について (問 23)	24
<b>3. 自由記述のデータ</b>	
プロジェクト研究について (問 6)	25
カリキュラム等について (問 18)	25
改善点要望等について (V)	25

## 総 括

- 令和元年（平成 31 年）度修了生 18 人中 12 人（66.7%）からアンケートへの回答があった。
- 令和元年（平成 31 年）度修了の 15 期生の属性の特徴は以下の通りである。
  - ・ 30 歳代の年齢層が多くなっている。
  - ・ 自宅は 5 割程度が高松市、勤務地も約 6 割が高松市内である。
  - ・ 就業状況は、正規雇用が 100%である。
  - ・ 入学時の職種は、公務員(国・地方自治体)、金融関係、サービス関係、医療関係が多い。
  - ・ 入学当時の役職は「部長」、「主任」と回答した者が多かった。
- 在学中の出席状況は、すべての授業に出席した場合を 100%として平均 89.9%である。前回アンケート調査(平成 30 年度修了生対象)では 87.3%であった。
- 週当たりの勉強時間は、14.68 時間である。前回アンケート調査では、13.92 時間であり、約 0.76 時間増加した。
- 仕事で役立ったと思う科目は、「人的資源管理論」と回答した人が最も多い。仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目は、「地域マネジメント論」、「デザイン・マネジメント」、「イノベーション・マネジメント」と回答した人が多い。前回のアンケート調査(平成 30 年度修了生対象)では、仕事で役立ったが「アカウンティング」で、仕事とは関係ないが役だったが「地域マネジメント論」との回答数が多かった。
- 土曜の開講は、必要（66.7%）、ある程度必要（25.0%）で合計 91.7%となり、土曜日開講の必要性は高い傾向にある。前回アンケート調査(平成 30 年度修了生対象)では、必要（57.1%）、ある程度必要（35.7%）で合計 92.8%であった。
- プロジェクト研究については、「満足している」（58.3%）、「ある程度満足している」（33.3%）で合計が 91.6%となっている。前回アンケート調査(平成 30 年度修了生対象)では、「満足している」（28.6%）、「ある程度満足している」（50.0%）で合計が 78.6%となっており、前回より 13.0%肯定的な回答が増えている。
- 社会人組織（所属組織）からの支援を受けた人は 75.0%、社会人組織以外（奨学金など）からの援助を受けた人は 41.7%となっている。
- 学部からの進学生による就職についての対応についての満足度は、「満足している」（8.3%）、「無回答」（91.7%）である。

- 環境（自習室、教室）については、自習室は「満足している」（50.0%）、「ある程度満足している」（33.3%）で合計が83.3%となっている。また、教室は「満足している」（33.3%）、「ある程度満足している」（58.3%）で合計が91.6%となり、多くが満足と回答している。  
前回アンケート調査(平成30年度修了生対象)では、自習室は「満足している」（55.6%）、「ある程度満足している」（11.1%）で合計66.7%、教室は「満足している」（29.6%）、「ある程度満足している」（51.9%）で合計81.5%であった。
- 大学院教育で身についた能力は、「自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力」「幅広い知識や教養」と回答した人が多かった。
- 研究科で学んだことについての満足度は、「満足している」（91.7%）、「ある程度満足している」（8.3%）、合計で100%であった。  
前回アンケート調査(平成30年度修了生対象)では、「満足している」（63.0%）、「ある程度満足している」（33.3%）と、合計96.3%が満足と回答している。
- 研究科に愛着があるかどうかは、「非常にある」（50.0%）、「ある程度ある」（50.0%）で「愛着がある」という回答が100%であった。  
前回アンケート調査(平成30年度修了生対象)では、「非常にある」（33.3%）、「ある程度ある」（66.7%）の合計100%であった。
- 講演会、シンポジウム等への参加しようと思うかについては、「思う」が（83.3%）であった。  
前回アンケート調査(平成30年度修了生対象)では、「思う」が（81.5%）であった。
- 講演会、シンポジウムの形式については、「一般公開」がよいとする意見が（58.3%）「在学生・修了生のみ対象」（33.3%）となっている。  
前回アンケート調査(平成30年度修了生対象)では「一般公開」（92.6%）、「在学生・修了生のみ対象」（3.7%）であった。
- 後期入学が必要という回答は、「非常に必要」（8.3%）「ある程度必要」（16.7%）が合計25.0%であり、「どちらともいえない」が50.0%、「あまり必要でない」（25.0%）「全く必要でない」（0.0%）が合計25.0%となっている。  
前回アンケート調査(平成30年度修了生対象)では、「非常に必要」（0.0%）「ある程度必要」（11.1%）が合計11.1%、「どちらともいえない」が63.0%、「あまり必要でない」（14.8%）「全く必要ない」（11.1%）が合計25.9%となっている。

## 第1章 修了生による大学院教育評価アンケート調査の概要

### 1. 調査の目的

この度、本研究科の令和元年度修了生を対象に大学教育評価に関するアンケート調査を実施し、その調査結果を「修了生による大学院教育評価報告書」に取りまとめた。

この調査の目的は、本研究科の提供する専門職大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本研究科に対する要望等を把握することを目的として実施することである。

### 2. 調査実施期間

令和2年3月24日（火）～27日（金）

### 3. 調査対象

#### （1）調査対象と調査方法

調査対象は、令和元年度地域マネジメント研究科の修了生全員である。修了式、学位授与式がなかったため、学位記を受取りに来校の際、修了生にアンケートに記入してもらい、その場で回収した。

#### （2）回収数及び回収率

アンケート調査の回収数は、令和元年度修了生18人中12人から回答があった

### 4. 調査の内容

アンケート調査の質問項目は、Ⅰ.在学当時の状況について、Ⅱ.在学当時の支援関係について、Ⅲ.修了後の効果について、Ⅳ.現在の状況について、Ⅴ.香川大学、本研究科へのご要望、Ⅵ.あなた自身について、の6項目についてである。詳しい内容は第3章の資料編を参照願いたい。

### 5. 集計方法

集計方法は、質問ごとに単純集計を行い、合計数とその割合（小数点第1位未満を四捨五入）を%で表示した。

なお、質問ごとの集計結果は、第3章資料編に綴っているので、参照願いたい。

## 第2章 調査結果について

### 1. 回答者の属性

問 24～問 31 は、回答者（修了生）の入学時の年齢、住所、所在地及び勤務地、就業状況、職種等を問うたものである。

#### （1）入学時の年齢（問 24）

入学時の年齢については、30歳代（50.0%）が最も高く、以下、40代（41.7%）、50代（8.3%）と続いている（図1を参照）。

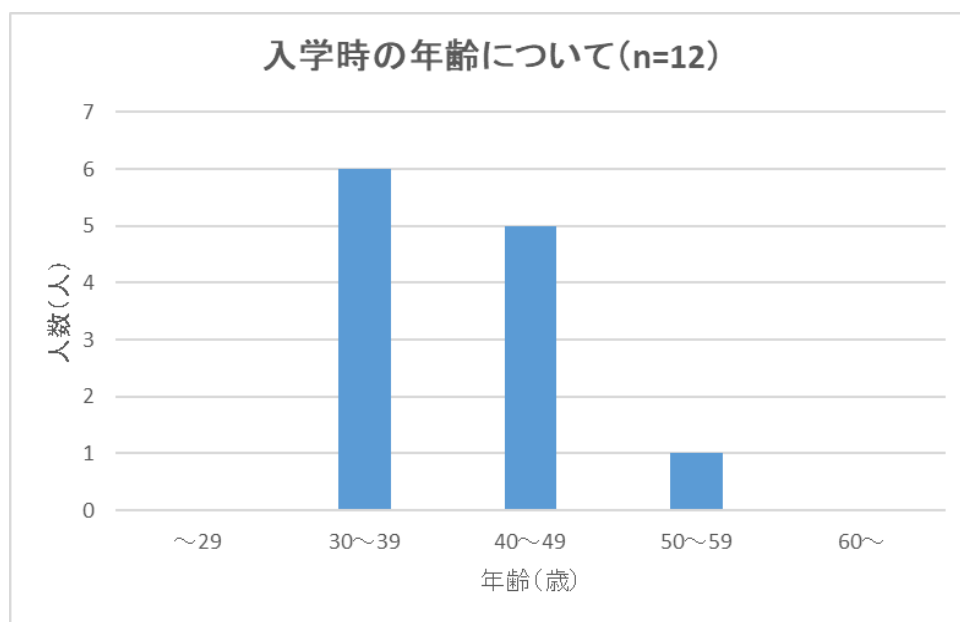


図1 入学時の年齢

#### （2）入学時の自宅所在地及び勤務地（問 25）

研究科入学時における自宅所在地は、高松市 50.0%（6人）で、高松市以外の香川県内 41.7%（5人）、県外では徳島県徳島市が 8.3%（1人）である。

勤務地は、高松市 58.3%（7人）、高松市以外の香川県勤務地は 41.7%（5人）となっている。

#### （3）入学時の就業状況、職種、役職について（問 26、27、28）

問 26 は本研究科の修了生が入学時に正規雇用で働いているか、非正規雇用で働いているかを問うたものである。正規雇用が 100%（12人）、非正規雇用、働いていないは 0%（0人）である。

職種は、公務員（地方自治体）、金融関係、サービス関係、医療関係が各 16.7%（2人）で、機械関係、食品関係、教育関係、その他が各 8.3%（1人）となっている。（図2を参照）。

役職は、部長、主任が各 16.7%（2人）、副調査役、係長、チーフ、主査、一般、課員が各 8.3%（1人）、無回答が 16.7%（2人）となっている。

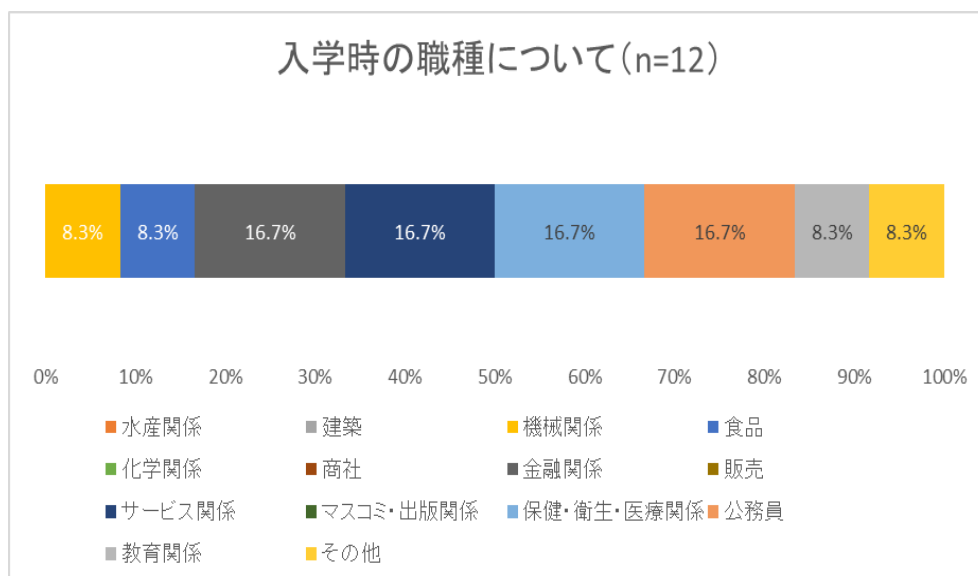


図 2. 入学時の職種について

#### (4) 現在の就業状況、職種について (問 29、30、31)

問 29 は本研究科の修了生が現在就業状況を問うたものである。正規雇用が 100% (12 人)、非正規雇用、働いていないは 0.0% (0 人) である。

職種は、公務員(地方自治体)、金融関係、サービス関係、医療関係が各 16.7% (2 人) で、機械関係、食品関係、教育関係、その他が各 8.3% (1 人) となっている(図 3 を参照)。

役職は、部長、主任が各 16.7% (2 人)、副調査役、係長、主査、経営役補、専門学校講師、管理職が各 8.3% (1 人)、無回答 16.7% (2 人) となっている。

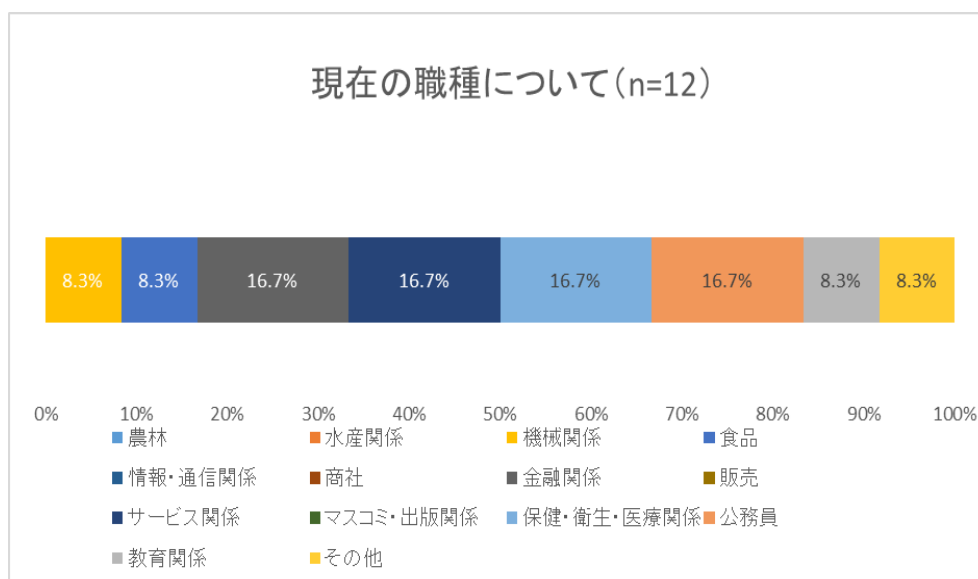


図 3. 現在の職種について

## 2. 分析

### 1. 在学当時の状況について

#### (1) 在学中の出席状況について（問1）

在学中にどれだけ出席できたかを見てみる。全ての授業に出席した場合を100%とし回答してもらったところ、平均が89.9%となった（図4を参照）。

前回アンケート調査(平成30年度修了生対象)では、87.3%であった。

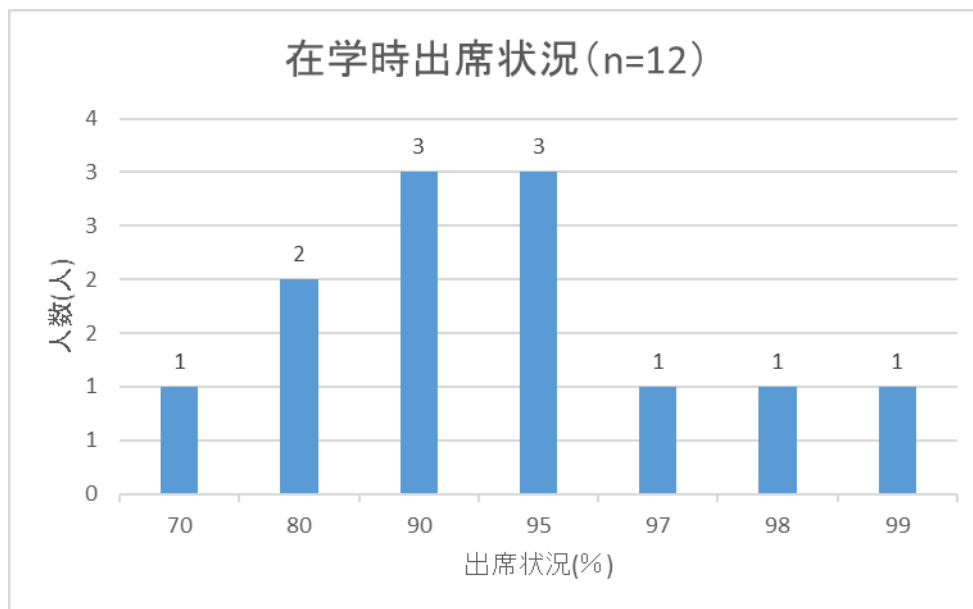


図4. 在学時出席状況

#### (2) 在学中勉強時間（問2）

在学中に週に勉強時間をどの程度、またどのように確保したのかを見てみると、平均14.68時間となる（図5を参照）。

前回アンケート調査(平成30年度修了生対象)では、13.9時間であった。

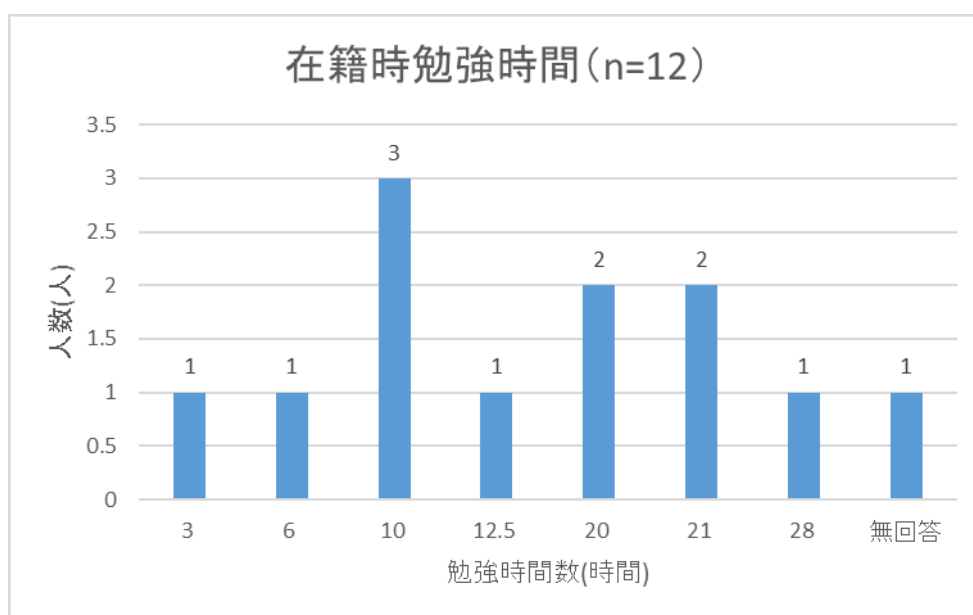


図5. 在学中勉強時間



授業時間以外の勉強時間をどのように確保しましたか（問2記述）

- ・平日の夜と休日に自習室に立寄るようにした
- ・講義のあと
- ・睡眠時間を削った
- ・自分のタイムスケジュールをしっかりと管理し、睡眠時間を削った
- ・平日夜間、休日の余暇を活用した
- ・週末を中心にまとめて勉強した
- ・早期退社
- ・土日休日の時間を使用
- ・早朝、はやおき
- ・業務後に自宅にて
- ・職場の理解があった為、急ぐ仕事がなければ職場でもしていた

（3）仕事で役立ったと思う科目（問3）

仕事に役立ったと思う科目を見ると以下のようなになる。最大3つ答えているので、他の問よりも総数が多くなっている。

表1. 仕事の上で役立ったと思う科目

人的資源管理論	4	11.1%	費用便益分析	1	2.8%
統計分析	3	8.3%	ファイナンスマネジメント	1	2.8%
組織行動論	3	8.3%	事業構想論	1	2.8%
定性的研究方法論	3	8.3%	ゲーム理論	1	2.8%
地域マネジメント論	3	8.3%	マーケティング・リサーチ	1	2.8%
アカウンティング	3	8.3%	地域産業連関分析	1	2.8%
経営管理論	2	5.6%	都市開発論	1	2.8%
プロジェクト研究・演習	2	5.6%	デザイン・マネジメント	1	2.8%
四国経済事情	1	2.8%	マネジメント・アカウンティング	1	2.8%

（4）仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目（問4）

仕事とは関係ないが、役立ったと思う科目を見ると以下のようなになる。この問も最大3つ答えているので、他の問よりも総数が多くなっている。

表2. 仕事とは関係なく役立ったと思う科目

地域マネジメント論	3	7.0%	ゲーム理論	1	2.3%
デザイン・マネジメント	3	7.0%	都市開発論	1	2.3%
イノベーション・マネジメント	3	7.0%	どれも役に立っていません	1	2.3%
四国経済事情	2	4.7%	社会起業家論	1	2.3%
地域公共政策	2	4.7%	地域観光マネジメント	1	2.3%
統計分析	1	2.3%	経済分析	1	2.3%
経営管理論	1	2.3%	クリエイティビティと地域活性化	1	2.3%
定性的研究方法論	1	2.3%			

(5) 土曜日の開講について (問 5)

社会人学生が多いこともあり、現在土曜日も開講しているが、それについての回答が以下のようになる (図 6 を参照)。「必要」(66.7%)「ある程度必要」(25.0%) で合計 91.7% となった。

前回アンケート調査(平成 30 年度修了生対象)では、「必要」(57.1%)「ある程度必要」(35.7%) 合計 92.8% であった。

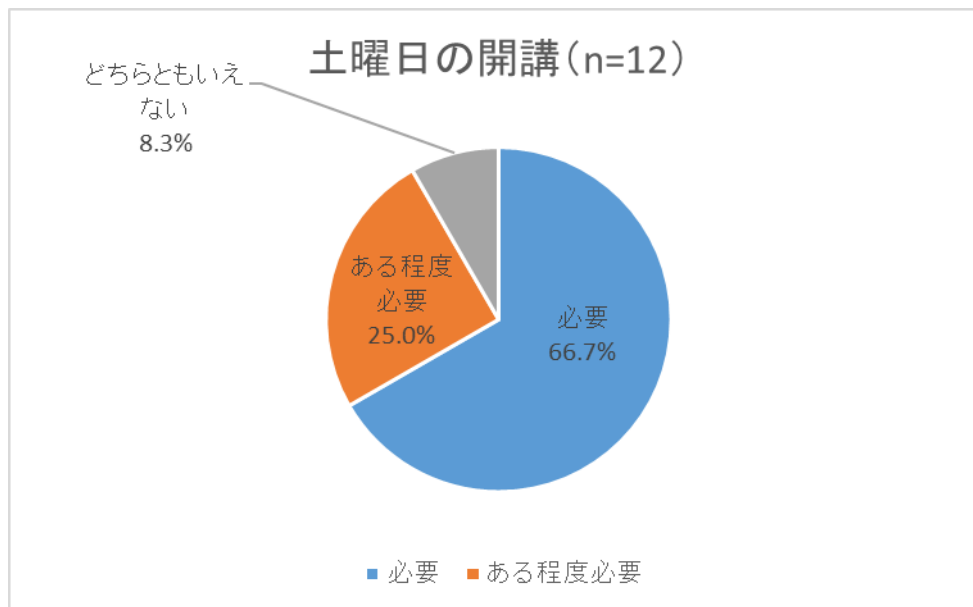


図 6. 土曜日の開講について

(6) プロジェクト研究について (問 7,8)

本研究科のカリキュラムの集大成となるプロジェクト研究について見てみると、「満足している」(58.3%)、「ある程度満足している」(33.3%) で合計 91.6% となった (図 7 を参照)。

前回アンケート調査(平成 30 年度修了生対象)では、「満足している」(28.6%)「ある程度満足している」(50.0%) で合計 78.6% であった。

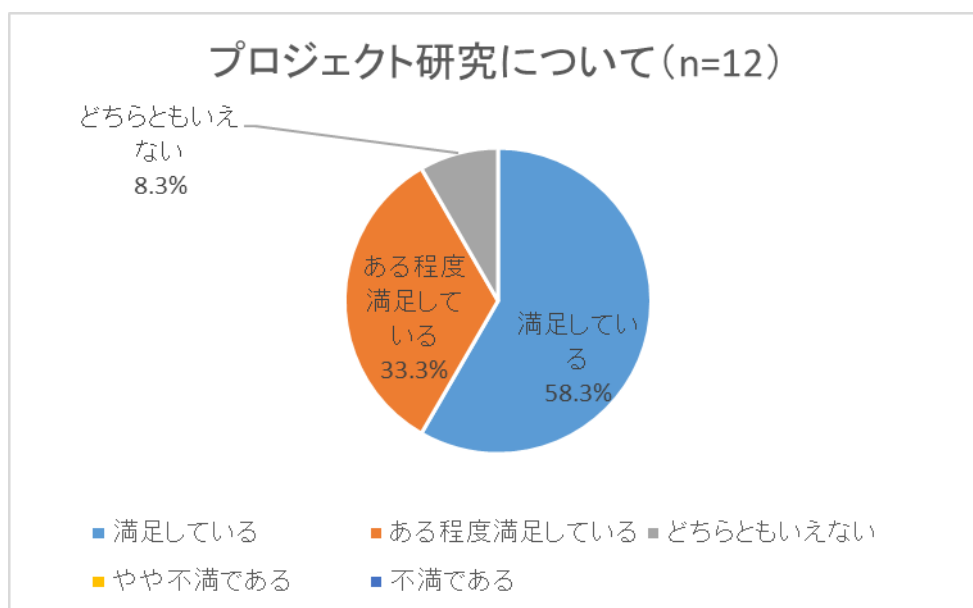


図 7. プロジェクト研究について

また、プロジェクト研究担当教員以外の指導については、「十分な助言・指導を受けた」(8.3%)、「充分とはいえないが、助言・指導を受けた」(16.7%)で、合計25%が担当教員以外から指導を受けていた。他方、「助言・指導は受けなかった」が75%を占めていた。担当教員以外で指導を受けた人は「本研究科内の教員 (n=3)」「他大学の教員 (n=1)」「職場の人 (n=1)」「本研究科内の学生 (n=1)」であった。

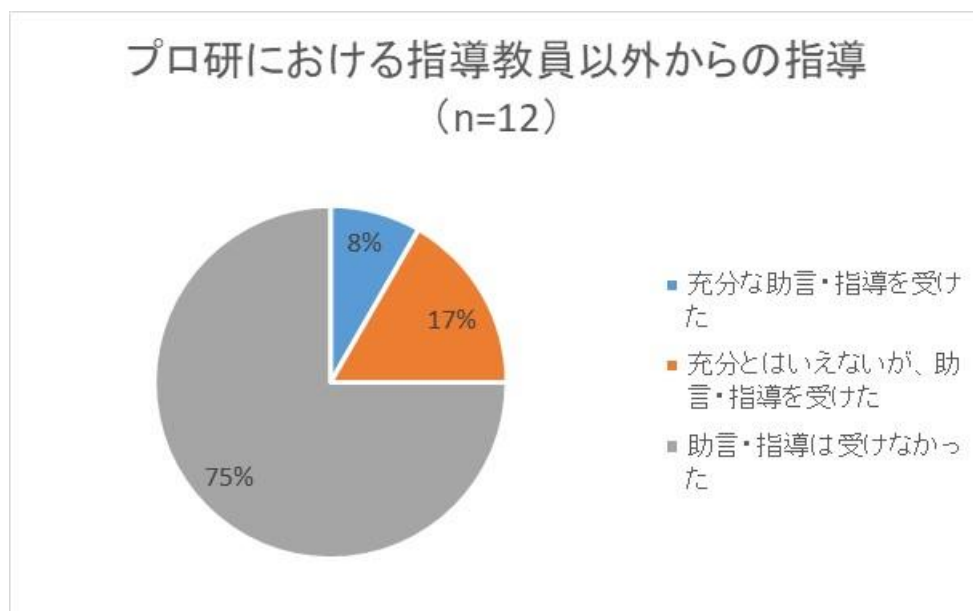


図 8. プロジェクト研究における指導教員以外からの指導について

(7) 社会人組織、社会人組織以外からの支援について (問 9,10)

社会人学生に、社会人組織 (所属組織) からの支援ならびに社会人組織以外 (奨学金など) からの援助について見てみると、以下のような状況である (図 9 を参照)。

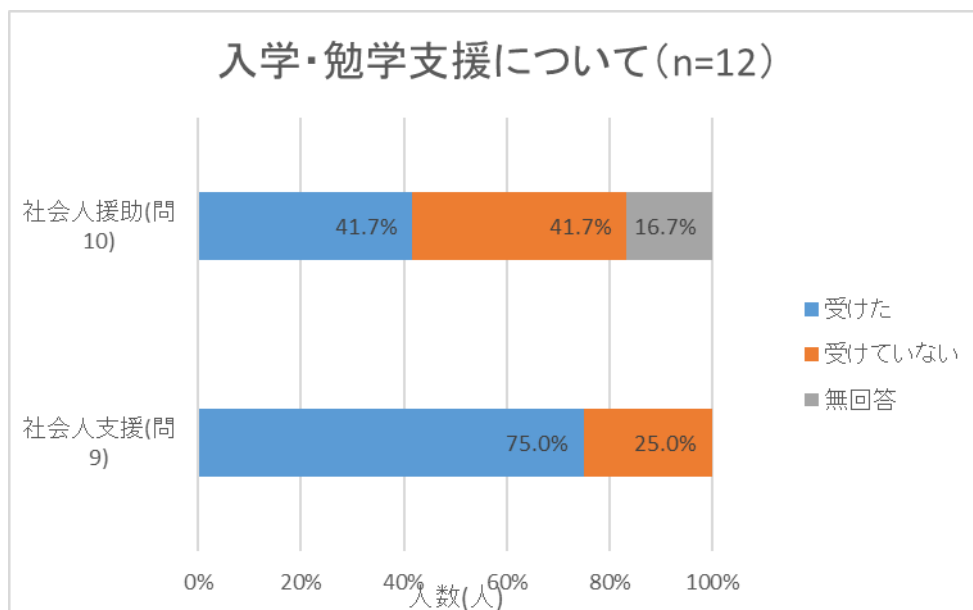


図 9. 入学・勉学支援について

## 具体的な内容

### 所属組織からの支援内容（問 9 記述）

- ・ 社長の理解と所属部署の協力
- ・ 業務時間を短縮してもらい講義に参加させてもらっていた
- ・ 業務振替など
- ・ 学費補助（3件）
- ・ 勤務時間の配慮、学費
- ・ 授業料、仕事の一貫として周囲の理解

### 所属組織以外からの援助内容（問 10 記述）

- ・ 専門実践教育訓練給付金
- ・ 職員を対象とする学費助成

## （8）学部学生の就職について（問 11）

学部からの進学生に、就職支援についての対応について満足度を見てみることにする（図 10 を参照）。

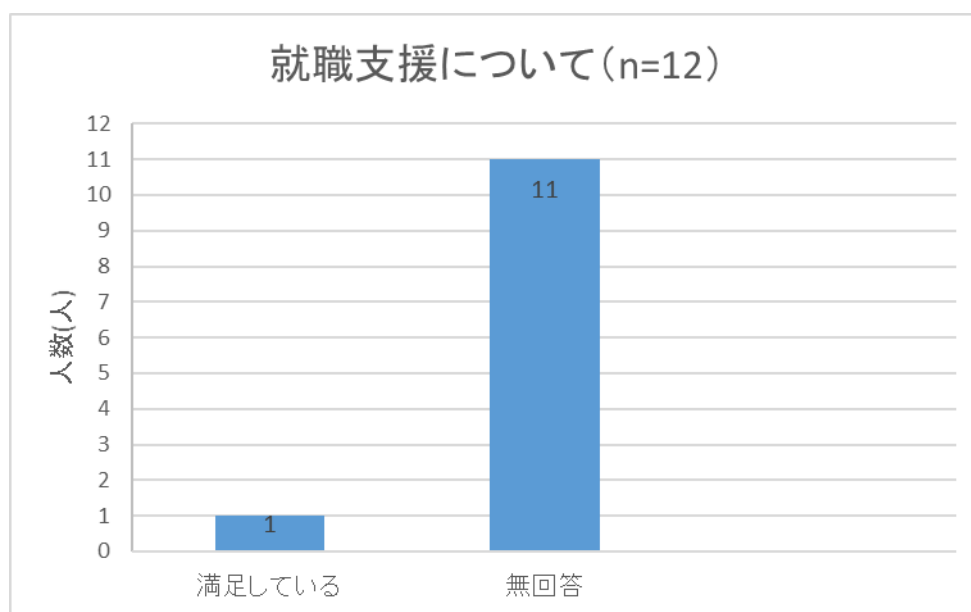


図 10. 就職支援について

(9) 自習室、教室の環境について (問 12,13)

自習室と教室の環境についての満足度を見てみると、教室は「満足している」(33.3%)、「ある程度満足している」(58.3%)で合計91.6%が満足と回答している。

自習室は「満足している」(50.0%)、「ある程度満足している」(33.3%)で合計83.3%が満足と回答している(図11を参照)。

前回アンケート調査(平成30年度修了生対象)では、教室は合計81.5%が満足、自習室は合計66.7%が満足と回答しているので、自習室、教室の満足度は前年に比べ両項目とも上昇している。

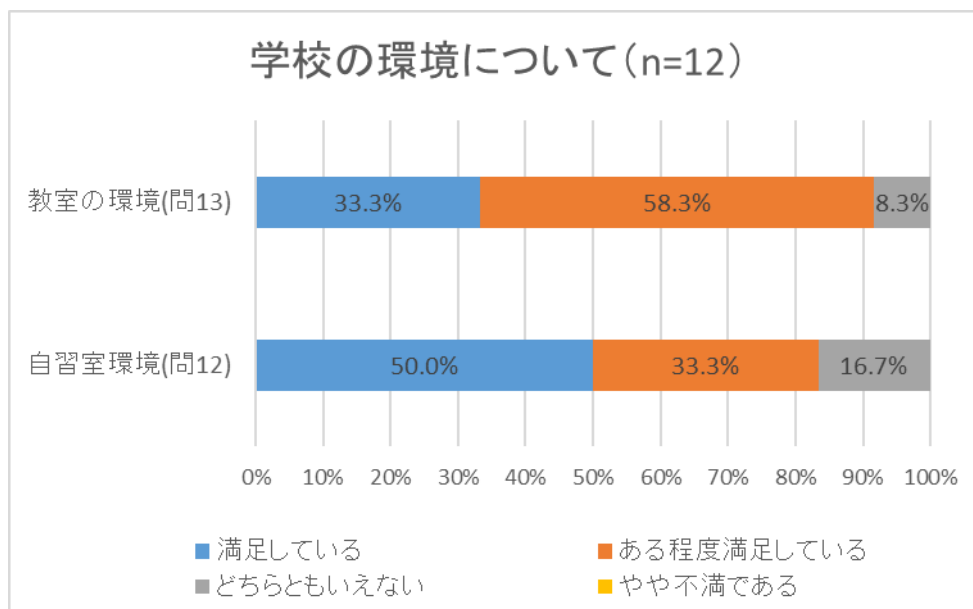


図 11. 学校の環境について

## 2. 修了後の効果について

### (1) 大学院教育で身についた能力と現在の仕事に必要な能力（問 14）

ここでは、19 の能力について、大学院教育でどの程度身についたか、また現在の仕事でどの程度必要とされているかを、「身についた」「ある程度身についた」「どちらともいえない」「あまり身につけていない」「身につけていない」、「必要」「ある程度必要」「どちらともいえない」「あまり必要ない」「必要ない」の 5 段階で回答してもらった。

なお、大学院教育の項目の「身についた」から「身につけていない」までを、“5、4、3、2、1”の 5 段階に（図 12-1 を参照）、現在の仕事の項目の「必要」から「必要ない」までを、“5、4、3、2、1”の 5 段階で表示した（図 12-2 を参照）。

※図は次頁

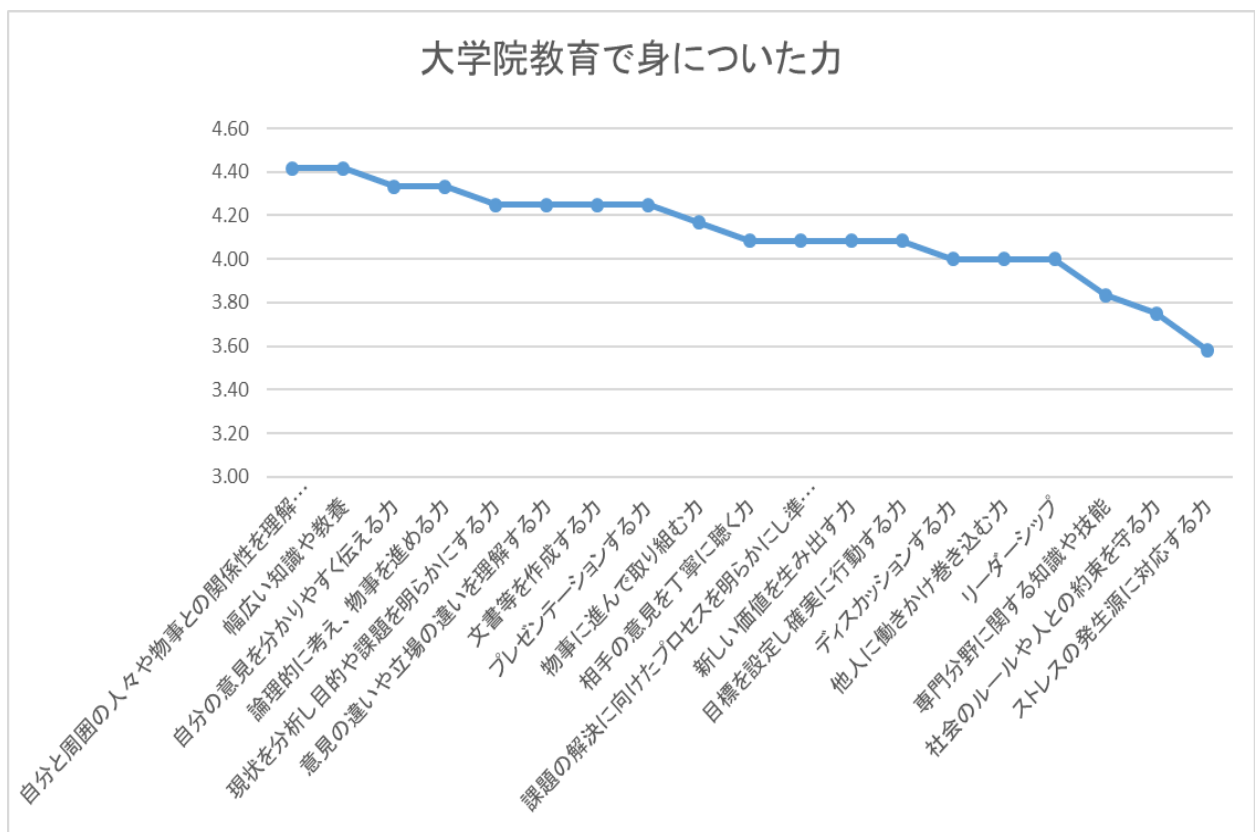


図 12-1. 大学院教育で身についた能力

表 3 大学院教育で身に付いた能力 (平均点順)

		平均値	標準偏差
⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	4.42	0.51
⑬	幅広い知識や教養	4.42	0.51
⑦	自分の意見を分かりやすく伝える力	4.33	0.65
⑮	論理的に考え、物事を進める力	4.33	0.49
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4.25	0.45
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	4.25	0.62
⑯	文書等を作成する力	4.25	0.62
⑱	プレゼンテーションする力	4.25	0.45
①	物事に進んで取り組む力	4.17	0.39
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	4.08	0.67
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4.08	0.67
⑥	新しい価値を生み出す力	4.08	0.79
③	目標を設定し確実に行動する力	4.08	0.90
⑰	ディスカッションする力	4.00	0.60
②	他人に働きかけ巻き込む力	4.00	0.74
⑲	リーダーシップ	4.00	0.43
⑭	専門分野に関する知識や技能	3.83	0.58
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	3.75	0.97
⑫	ストレスの発生源に対応する力	3.58	0.67

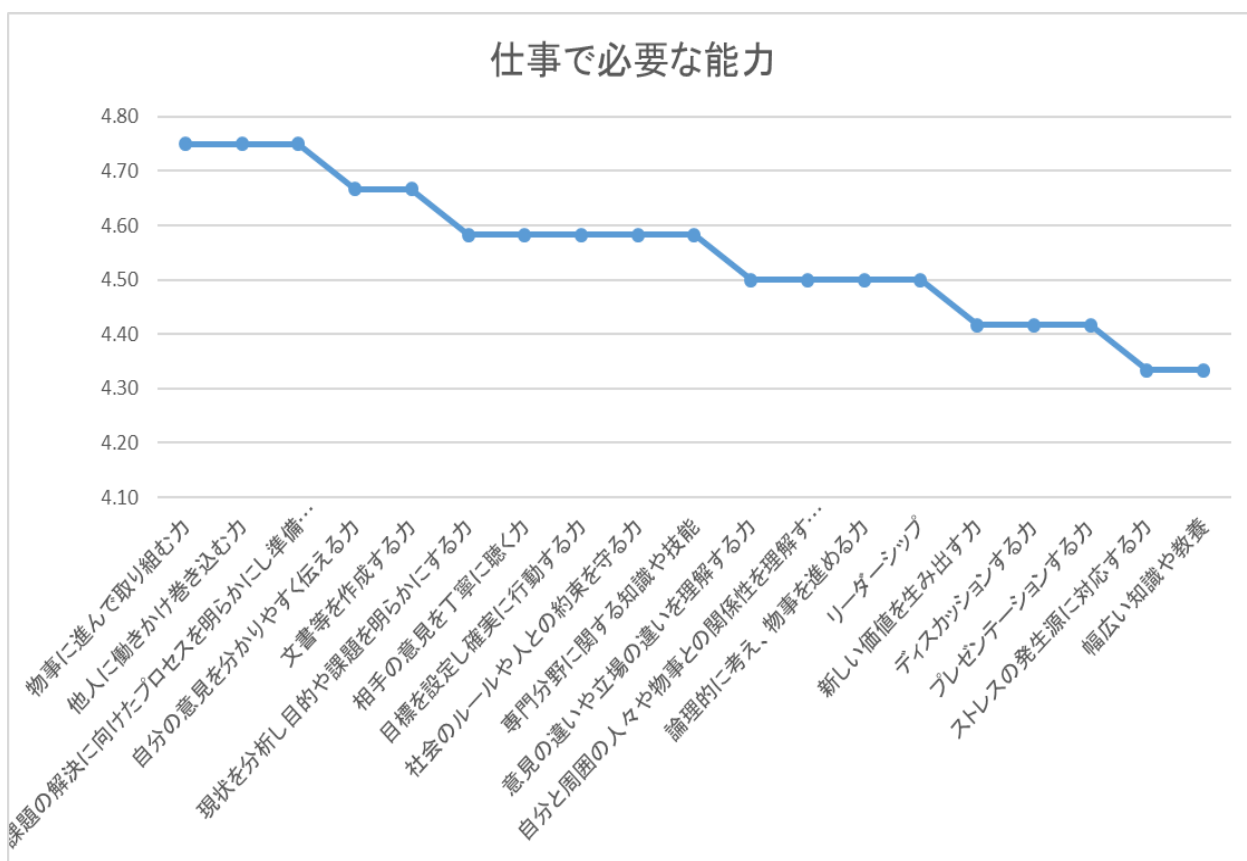


図 12-2. 現在の仕事で必要な能力

表 4 現在の仕事で必要な能力 (平均点順)

		平均値	標準偏差
①	物事に進んで取り組む力	4.75	0.45
②	他人に働きかけ巻き込む力	4.75	0.45
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4.75	0.45
⑦	自分の意見を分かりやすく伝える力	4.67	0.65
⑬	文書等を作成する力	4.67	0.65
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4.58	0.67
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	4.58	0.67
③	目標を設定し確実に行動する力	4.58	0.51
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	4.58	0.51
⑭	専門分野に関する知識や技能	4.58	0.51
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	4.50	0.67
⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	4.50	0.67
⑮	論理的に考え、物事を進める力	4.50	0.67
⑲	リーダーシップ	4.50	0.67
⑥	新しい価値を生み出す力	4.42	0.67
⑰	ディスカッションする力	4.42	0.79
⑱	プレゼンテーションする力	4.42	0.79
⑫	ストレスの発生源に対応する力	4.33	0.65
⑬	幅広い知識や教養	4.33	0.78



表5 「大学院教育で身についた能力」と「現在の仕事で必要な能力」の順位差

		身についた能力	仕事で必要な能力	順位差 ※
①	物事に進んで取り組む力	9	1	-8
②	他人に働きかけ巻き込む力	15	2	-13
③	目標を設定し確実に行動する力	13	8	-5
④	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	5	6	1
⑤	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	11	3	-8
⑥	新しい価値を生み出す力	12	15	3
⑦	自分の意見を分かりやすく伝える力	3	4	1
⑧	相手の意見を丁寧に聴く力	10	7	-3
⑨	意見の違いや立場の違いを理解する力	6	11	5
⑩	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	1	12	11
⑪	社会のルールや人との約束を守る力	18	9	-9
⑫	ストレスの発生源に対応する力	19	18	-1
⑬	幅広い知識や教養	2	19	17
⑭	専門分野に関する知識や技能	17	10	-7
⑮	論理的に考え、物事を進める力	4	13	9
⑯	文書等を作成する力	7	5	-2
⑰	ディスカッションする力	14	16	2
⑱	プレゼンテーションする力	8	17	9
⑲	リーダーシップ	16	14	-2

※順位差は、現在の仕事で必要な能力（順位）－大学院教育で身についた能力（順位）

大学院教育で身についた能力 (19項目平均4.11)	身についた (<4.11)	⑩自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力 (0.08) ⑮論理的に考え、物事を進める力 (0.17) ⑨意見の違いや立場の違いを理解する力 (0.25) ⑱プレゼンテーションする力 (0.17) ⑬幅広い知識や教養 (-0.08)	①物事に進んで取り組む力 (0.58) ⑦自分の意見を分かりやすく伝える力 (0.33) ⑯文書等を作成する力 (0.42) ④現状を分析し目的や課題を明らかにする力 (0.33)
	身につかなかった (>4.11)	⑲リーダーシップ (0.50) ⑥新しい価値を生み出す力 (0.33) ⑰ディスカッションする力 (0.42) ⑫ストレスの発生源に対応する力 (0.75)	⑤課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 (0.67) ②他人に働きかけ巻き込む力 (0.75) ⑧相手の意見を丁寧に聴く力 (0.50) ③目標を設定し確実に行動する力 (0.50) ⑭専門分野に関する知識や技能 (0.75) ⑪社会のルールや人との約束を守る力 (0.83)
		必要でない (<4.55)	必要 (>4.55)
現在の仕事で必要な能力 (19項目平均4.55)			

※ ( ) 内は、現在の仕事で必要な能力 (平均値)－大学院教育で身についた能力 (平均値)

大学院教育で身についた能力（5点満点）	4-5点			⑩自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力（0.08） ⑬幅広い知識や教養（-0.08） ⑦自分の意見を分かりやすく伝える力（0.33） ⑮論理的に考え、物事を進める力（0.17） ④現状を分析し目的や課題を明らかにする力（0.33） ⑨意見の違いや立場の違いを理解する力（0.25） ⑯文書等を作成する力（0.42） ⑱プレゼンテーションする力（0.17） ⑧物事に進んで取り組む力（0.37） ⑧相手の意見を丁寧に聴く力（0.50） ⑤課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力（0.67） ⑥新しい価値を生み出す力（0.33） ③目標を設定し確実に行動する力（0.50） ⑰ディスカッションする力（0.42） ②他人に働きかけ巻き込む力（0.75） ⑲リーダーシップ（0.50）
	3点			⑭専門分野に関する知識や技能（0.75） ⑪社会のルールや人との約束を守る力（0.83） ⑫ストレスの発生源に対応する力（0.75）
	1-2点			
		1-2点	3点	4-5点
現在の仕事に必要な能力（5点満点）				

(2) 学んだことに満足しているかについて (問 15)

ここでは、総合的にみて、研究科で学んだことについて満足しているかについて見てみると、「満足している」(91.7%)、「ある程度満足している」(8.3%) 合計 100%であった (図 13 を参照)。前回アンケート調査(平成 30 年度修了生対象)では、「満足している」(63.0%)「ある程度満足している」(33.3%)で合計が 96.3%であった。

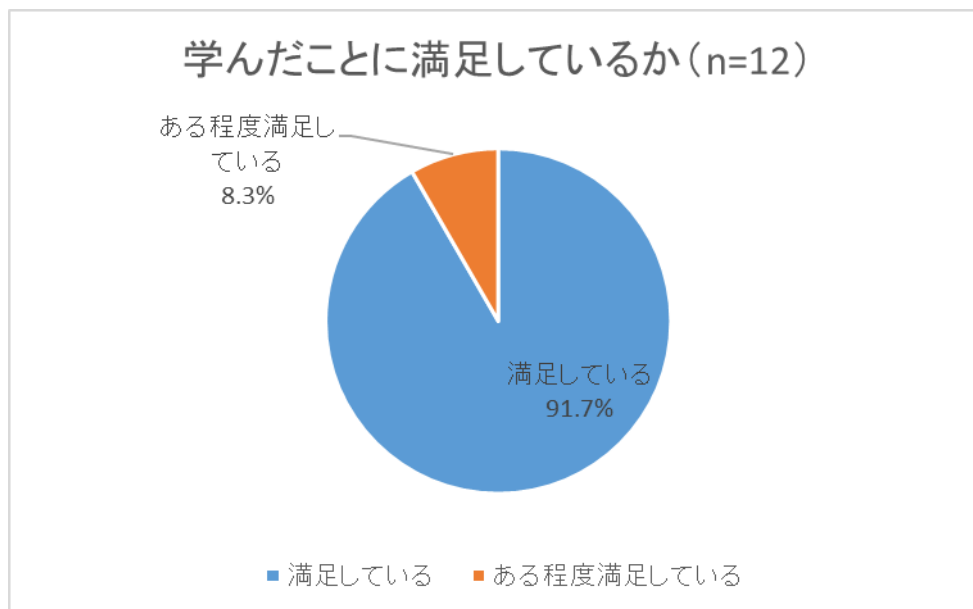


図 13. 学んだことに満足しているか

(3) 愛着について (問 16)

研究科に愛着があるかどうかを見てみると、「非常にある」(50.0%)、「ある程度ある」(50.0%)で合計 100%となり、全数が「愛着がある」と回答した (図 14 を参照)。前回アンケート調査(平成 30 年度修了生対象)では、「愛着がある」(33.3%)、「ある程度ある」(66.7%)で合計 100%であった。

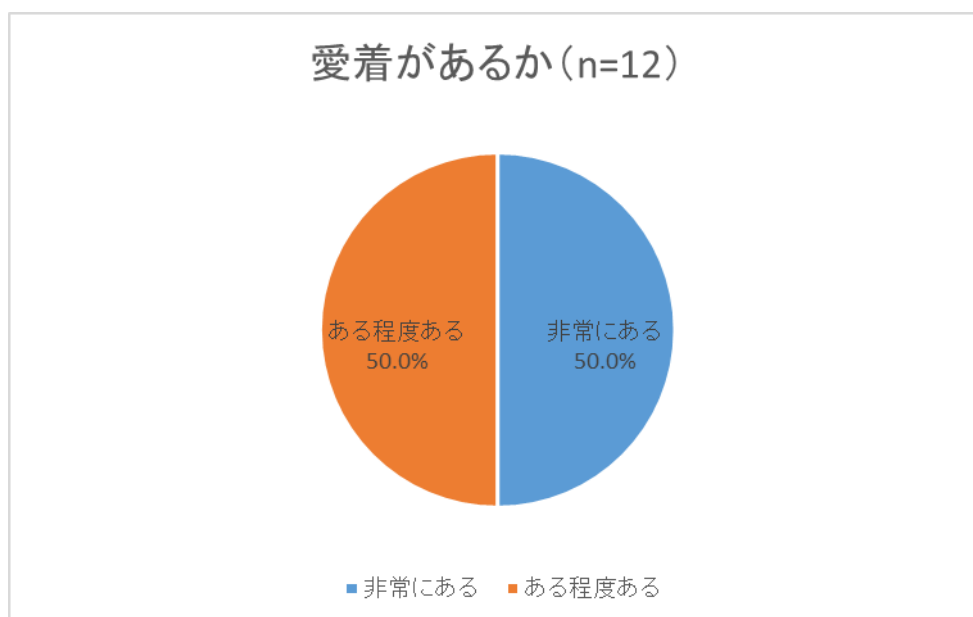


図 14. 愛着があるか

(4) 人的ネットワークの構築について (問 17)

研究科において人的なネットワークを構築できたかについては、「非常にできた」(33.3%)、「ある程度できた」(66.7%) で合計 100%となっており、研究科の学びの場としての効果の一つと捉えられる。

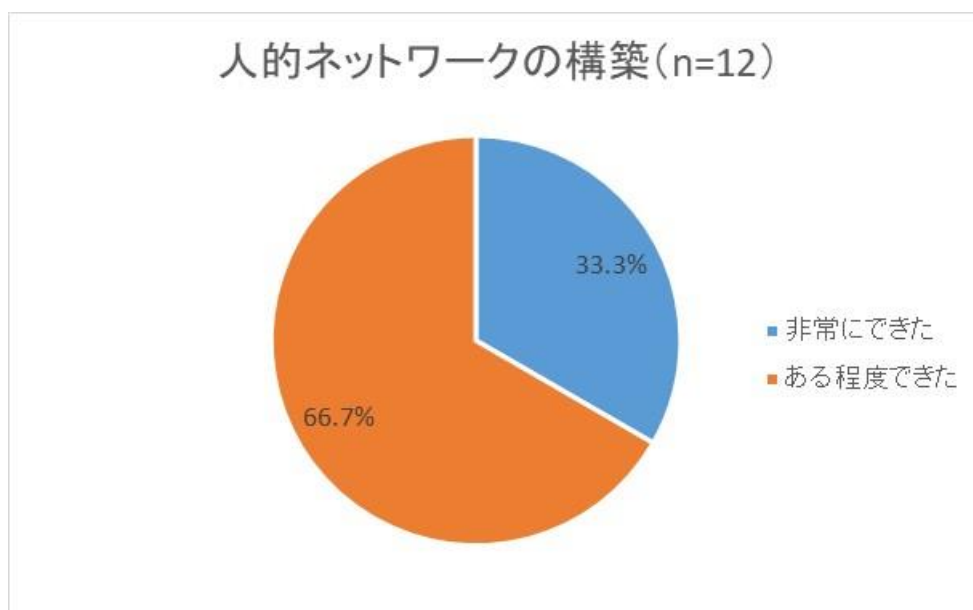


図 15. 人的ネットワークの構築

### 3. 現在の状況について

#### (1) 自己研修について (問 19)

能力向上のため、何か自己研修を行っているかを見てみると、行っている人・予定している人 (66.7%) と行っていない人 (33.3%) となった (図 16 を参照)。

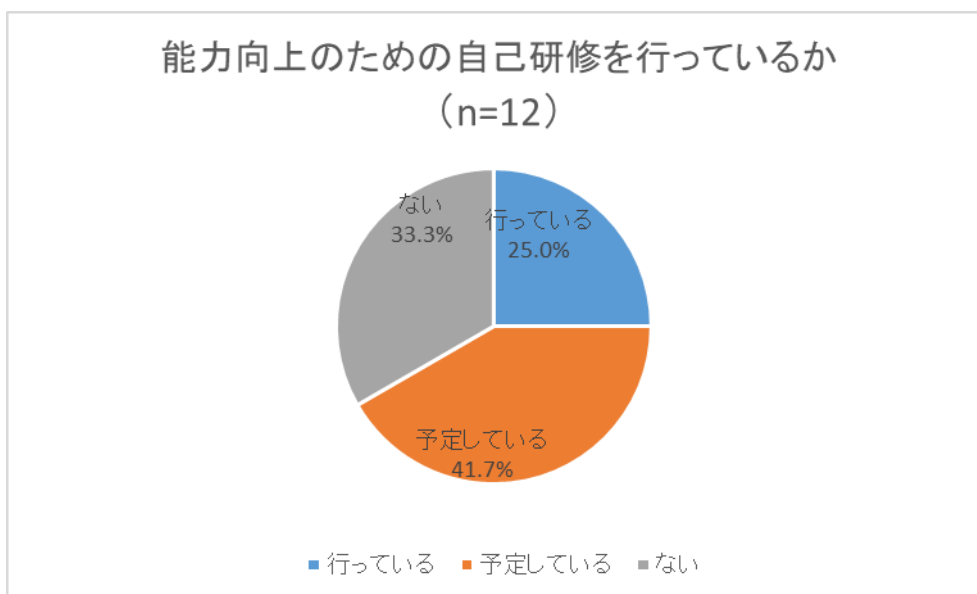


図 16. 能力向上のための自己研修を行っているか

#### 具体的内容 (問 19 記述)

行っていると回答した人
・ 英語 ・ 業務直結業務以外に経営・マーケティングに関する学習
予定していると回答した人
・ 英会話 ・ プロジェクト研究の内容を学会発表

(2) 地域活動について (問 20)

個人あるいはグループで地域のための活動を行っているかを見てみると、予定している人 (25.0%) と行っていない人 (66.7%) となった (図 17 を参照)。

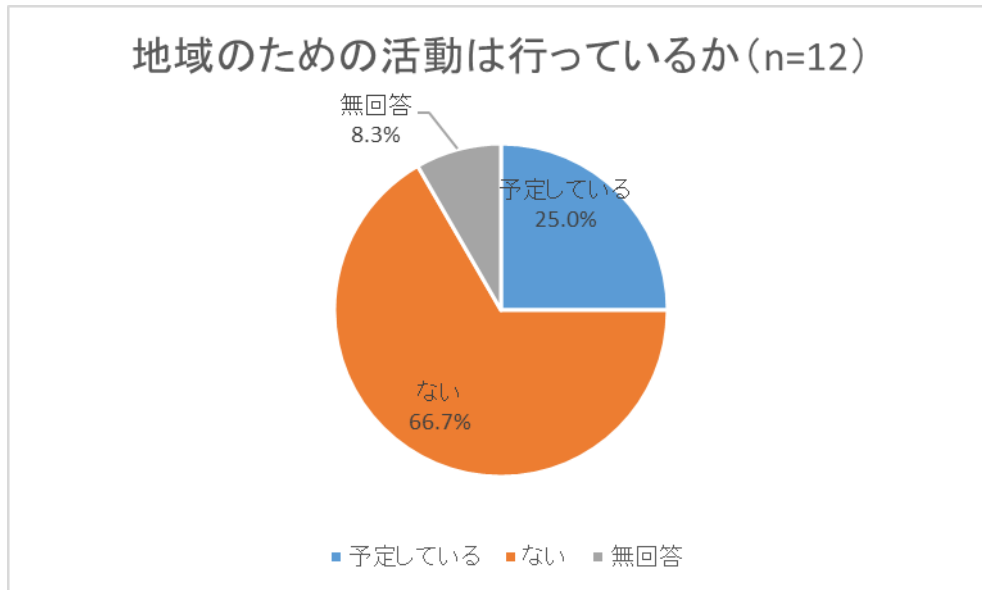


図 17. 地域の為の活動を行っているか

具体的内容 (問 20 記述)

予定していると回答した人

- ・業務外で NPO 等の活動を手伝いたいと思っている。
- ・地域における予防医療

(3) 研究科開催の講演会・シンポジウムなどについて (問 21,22)

研究科で開催した講演会・シンポジウムなどに参加しようと思うかについて見てみると、「思う」が (83.3%) であった。(図 18 を参照)。

さらに、研究科で開催する講演会・シンポジウムはどのような形がよいと思うかについて見てみると、対象を限定しない「一般公開」が (58.3%)、「在学生・修了生のみ対象」が (33.3%) となった (図 19 を参照)。

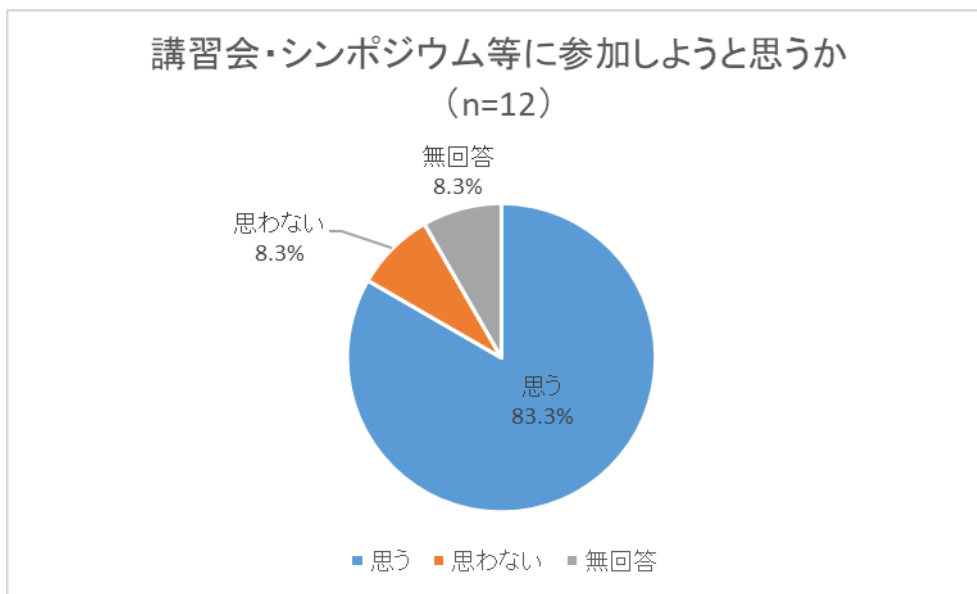


図 18. 講演会・シンポジウムに参加しようと思うか

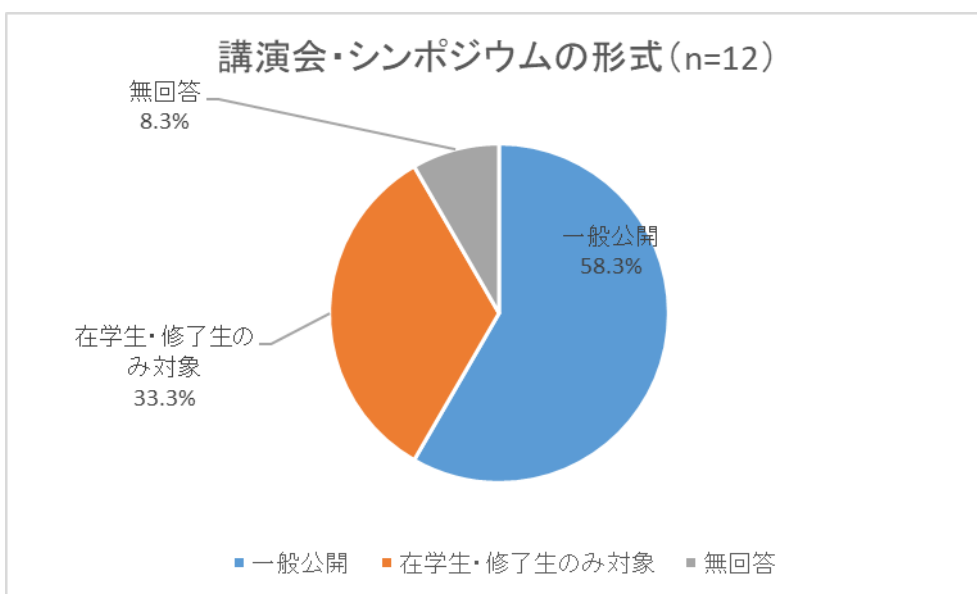


図 19. 講演会・シンポジウムの形式について

(4) 後期（10月）入学の必要性について（問23）

研究科に、後期（10月）入学が必要かどうかについて見てみると、「非常に必要」（8.3%）「ある程度必要」（16.7%）、どちらともいえない（50.0%）、あまり必要でない（25.0%）、全く必要でない（0.0%）となった。（図20を参照）。

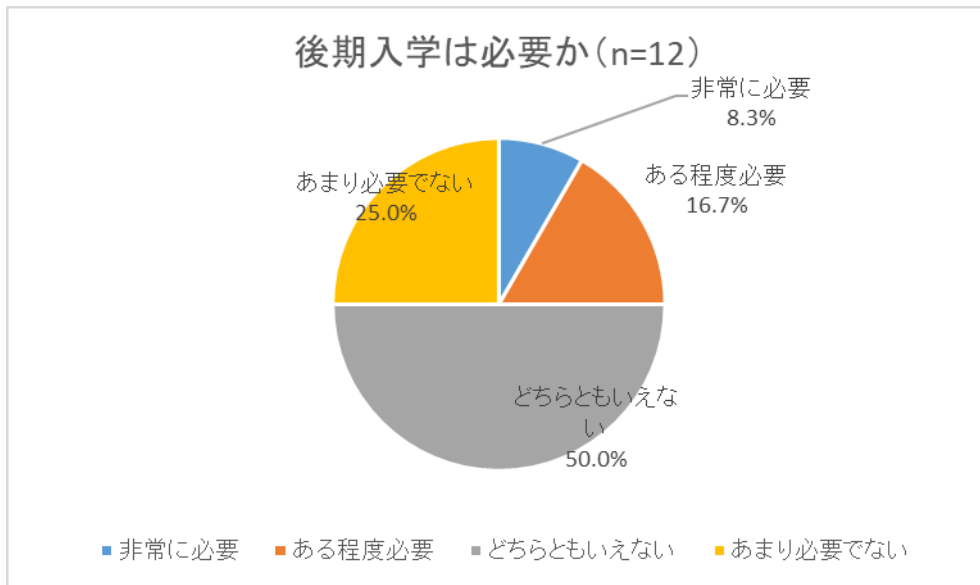


図20. 後期入学の必要性について



### 3. 自由記述のデータ

#### 問 6. プロジェクト研究についてどう思いますか。またその理由はなんですか。

- ・自分の能力を超えたものにチャレンジできた。
- ・定性+定量の両方を経験できたから。
- ・好きなテーマを見つけた。しかし見つけるのが遅くてバタバタと仕上げることになった為。
- ・必死で取り組んだつもりではありますが、自身の能力不足の為、十分な仕上がりとは言えませんでした。

#### 問 18. 地域マネジメント研究科のカリキュラム等について自由に意見を記入してください。

- ・多様な先生方から、それぞれの知見を学ぶことができ大変有意義であった。興味を持った分野について、自己学習を行う機会となった。今後も継続していきたい。・カリキュラムについては、満足。ただし、授業の方法としては、より多くの人とディスカッションを行いたかった。
- ・2年間という期間はちょうど良いと考えるが、プロジェクト研究の比重が大きいと考えるため、1年時に履修を多くしてしまっていて、ちょっとハードになってしまう。1つ1つの教科をじっくり受けたいと思いました。
- ・クリエイティビティと地域活性は非常に興味深かった。特にストーリーの力で地域を盛り上げることができる事。社会起業家論は今まで考えたこともない視点だったので視野が広がった。
- ・隔年開講の講義について、しっかりアナウンスしてもらいたい。せっかくの講義を受講できずに終わるので。。。
- ・経済・経営系の勉強は初めてであったが、多種多様な人材にとって魅力のあるカリキュラムであったと思います。
- ・通学に時間がかかったので遅刻が多く先生や同級生にご迷惑をおかけした。香川中部だけでなく東・西などにサテライトがあるといい。イーラーニングなどパソコン、リモートでの授業参加も少しずつあるとよい。

#### V. 香川大学、あるいは地域マネジメント研究科がもっと重視したり改善したりした方が良くと思う教育内容や取り組み、要望などがございましたら、ご自由にお書きください。

- ・自習室の秩序（ポットを持ち込んでカップラーメンを食べるとか…なし。机の上だけでなく足を片付けるとか。）
- ・地域の企業、団体、大学等の関係者とのネットワークづくりの場をより重視してほしい。
- ・プロジェクト研究の負担を下げて、講義による学びにより多くの時間をかけたいと感じた。
- ・あくまで個人的意見として、医療・介護の分野に関わる人間にとって非常に魅力的な大学院だと感じたので、そういう方々に向けた授業内容の拡充を図っていただけると嬉しいと思いました。
- ・レポート提出（特に最後の）に対するフィードバックがあるといいと思う時があった。自分の出した答え、意見、考えに対して、合っているのか、考えに修正が必要か、さらなる学習への導きがあるといいと思いました。とても充実した2年間でした。ありがとうございました。